

A 1 心グループ

長岡支部グループ研修

I 研究主題 健康教育活動を活性化させる要因に関する研究
～ 養護教諭が行う組織的な活動の視点から ～

II 研修テーマ

保健室来室生徒に対する支援機能のコーディネーターとしての養護教諭の役割について <この研修テーマはグループ内でアンケートを実施し決定した>

III 内容とその概要

(1) 第1回研修会 (10月22日: 寺泊中学校)

講師: 臨床心理士 三浦 かおり 様

○ご指導・講義

① 支援機能のコーディネーターとしての役割意識について。

養護教諭の保健室でのかかわり方には、「見立て」が大事である。「見立て」が間違っていると支援が間違ってしまう。小さなことを見逃さない。

② 保健室来室状況の記録について

各学校の保健室来室者記録用紙の工夫。みとる、つなぐ、・心、つぶやきが記入できるようなもので、生徒の変化がわかるものがよい。

(2) 第2回研修会 (1月21日: 寺泊中学校)

講師: 臨床心理士 三浦かおり 様

○ご指導・講義

① 保健室における支援対象生徒とのかかわり方について

- ・ 関わりの中の「見立て」について。このケースは急なことなのか、慢性なのか等。養護教諭の感じたこと、考えたことが「見立て」に繋がってゆく。
- ・ 傾聴について—アクティブリスニング (支援対象生徒の気持ちを、能動的に理解を深めながら聴く。)
「否定しないで抱える」という保健室機能の意義。
- ・ スキルトレーニングと評価ツールの一例として、スケーリングを使う。

「不安温度計」心の状態を10点とすると不安度は何点か? 話し終わって何点か?

② 事例検討

- ・ 評価ツール (支援チャートと来室記録の校内の事例) を持ち寄って、生徒の気持ちになって傾聴することを実際にやってみた。

IV 成果と今後の課題

学校、組織において、チームで個々の生徒の支援にあたることは不可欠である。近年、保健室来室者数が増えるのみでなく、来室動機もけがや体調不良が心の悩みや心の不調が背景にある場合も増えている。このように保健室の機能が多様化する状況の中で、養護教諭の担う役割について意識を新たに作る機会を得た。

研修を通して、心理的ケアの必要な生徒の支援は「見取り」と「チーム体制での対応の全体的視野」を持ち続けて生徒に関わることの意義を共有した。

次年度は、さらにステップアップした具体的関わり方を学ぶ機会を作るため、動作法について研修を深めていきたいと思う。

(1) 研修テーマ：

保健室来室生徒に対する支援機能のコーディネート役としての養護教諭の役割について

(2) 評価基準：

養護教諭との関わりを通して、来室生徒の①自己肯定感、②対人スキル、③問題解決スキルの向上を支援し、学校生活への適応を促進できる。

(3) 評価ツール：

- ・支援チャート
- ・見立て
- ・プロセスレコード
- ・データ・カルテ

(4) 研修内容：

- ① 支援機能コーディネーターとしての役割意識について
- ② 評価ツールについて
- ③ 自己肯定感の維持・改善を支援する指導技術について
- ④ 問題解決・対人スキルの改善を支援する指導技術について

(5) 研修プログラム

- ・第1回：上記の①、②に関する理論紹介と具体的事例検討
- ・第2回：③、④に関する理論紹介と具体的事例検討

保健室利用生徒のデータ

____学年____組 (学担：____) 氏名_____
所属部活動：_____ (顧問：_____)
備考：_____

<支援チャート>

- 支援対象生徒に関する保健室利用時の状態像把握
- その場での対応による心理的安定 (スケーリング等による)
- 状態像にみる支援対象生徒の見立て (<見立て>を参照)
- 学級担任への情報提供と本人理解
- S Cの活用の有無 (見立て・面接)
- 外部連携の必要性について (医療機関・外部機関：_____)
- 支援方針 (必要に応じたチーム支援体制の確立：_____)
- 支援対象生徒に関する支援チームとの共通理解と支援方針
(チーム構成員：_____)
- 適応状況についての評価・再評価

<見立て>

- 支援対象生徒の課題 (自己肯定感/問題解決スキル/対人スキル/その他：_____)
- 適応状況・不適応の直接因特定 (心理的要因/教育的要因/福祉的要因：急性型/慢性型)
- その他：_____

(評価ツール)

<来室記録>

月日	時間(限)	主訴	思ったこと／感じたこと	具体的対応	対応の結果